



国立大学法人

長崎大学

NAGASAKI UNIVERSITY

平成23年 4月 1日

東北地方太平洋沖地震における長崎大学の支援について

⑱

東北地方太平洋沖地震の支援のための長崎大学の活動状況について、別紙のとおりお知らせします。

【問い合わせ先】

長崎大学広報戦略本部 Tel : 095-819-2868

東北地方太平洋沖地震における長崎大学の支援について

プレスリリースの内容

長崎大学が3月25日～3月31日に実施した支援の内容と4月1日以降実施予定の支援計画について公表します。

【3月25日～3月31日の動き】

●緊急ひばくしゃ医療対応

長崎大学は福島県立医科大学を拠点に「緊急ひばくしゃ医療対応」の活動を実施しております。

3月25日～3月31日の期間に実施した主要な支援活動は、以下のような内容になります。

- ・3月25日 16:30-17:30 長崎県、長崎市が福島県へ派遣する県・市職員に対して、山下研究科長が講演。
- ・3月27日 福島県で活動していた高村教授が帰崎。
- ・3月27日 山下研究科長が福島県の対応チームに合流。
- ・3月29日 福島快晶（診療放射線技師）、廣島陽子（看護師）が福島県の対応チームに合流。
- ・3月31日 奥野浩二（放射線技師） 帰崎。

●地域医療支援について

長崎大学は、地震発生直後から岩手県遠野市に拠点を置き、医療支援活動を実施してきましたが、4月以降の医療支援活動に関しましては、長崎県及び長崎市と連携し、福島県南相馬市を中心に在宅（巡回）診療を行うことを決定しました。当面の活動期間として、4月3日（日）から2カ月程度を予定しています。長崎大学からは1チーム（医師1名、看護師1名）を派遣します（1週間で交代予定）。歯科医師についても派遣いたします。

- ・3月31日 16:30～ 長崎県庁で派遣医療チームの出発式を実施。

●遠野支援活動拠点（岩手県遠野市）

3月15日から3月29日まで活動してまいりました岩手県遠野市の拠点につきましては、震災直後に実施すべき初期の役割を果たしたと判断し、30日をもって撤収いたしました。この期間に、山本教授以下、延べ18名の医師、カウンセラー、研修医、薬剤師、看護師、学生及び事務職員を派遣し、遠野市を拠点として岩手県釜石市、大槌町での支援活動を実施しました。

- ・3月25日 中村洋一（医師）、田中邦彦（医師）、本田知治（看護師）、猪飼桂（学生）が合流し活動開始。

- ・3月26日 医師1名，看護師1名が帰崎。
- ・3月26日 遠野活動拠点からの要請を受け，現在国内で不足している「チラージンS錠」を100錠、本学病院在庫から発送。
- ・3月28日 16:45 教員1名，学生1名，事務職員2名が水産学部公用車で長崎大学に帰着。
- ・3月29日 活動終了。
- ・3月30日 山本教授，医師2名，薬剤師1名，看護師1名，学生1名，事務職員1名が帰崎のため移動。

●その他の活動について

鈴木基 助教（熱帯医学研究所）が、東北大学医学系研究科微生物学分野からの要請で、宮城県仙台市、本吉郡南三陸町などにおいて、東北地方の避難所における感染症予防指導とモニタリングシステムの構築に当たっています。

3月28日に活動を開始しました（4月7日までの予定）。

【4月1日～4月7日の予定】

●緊急ひばくしゃ医療対応

- ・4月2日 片峰学長，河野理事（病院長），須齋理事，調理事が福島県入りし、福島県立医科大学との連携協定を締結。放射線影響研究機関協議会に出席。
- ・4月3日 塚崎邦弘（医師）が合流し，熊谷敦史（医師）と交代。
- ・4月5日 吉田浩二（看護師）が合流し，廣島陽子（看護師）と交代。

●地域医療支援について

- ・4月3日 安岡彰（感染制御教育センター長・医師），齋藤俊行（歯科医師），鉦打健（看護師）が福島県に入り，4日から活動開始。

●その他の活動について

奥村 順子 准教授（熱帯医学研究所）が HuMA（災害人道医療支援会）からの要請を受け，4月2日から13日まで、宮城県志津川 Bayside Arena（被災者1500名）およびその周辺地域において，①被災者医療支援における調剤、薬剤管理，②HuMA が現地にて立ち上げた赤ちゃん一時避難プロジェクト活動を行います。

鈴木基 助教（熱帯医学研究所）による東北地方の避難所における感染症予防指導とモニタリングシステムの構築活動は、4月7日までの予定です。